

令和6年7月30日

学び・教育改革に臨む私たちの決意 ～日本の学びの「新しい当たり前」を信州から創る～

長野県知事 阿部 守一
長野県教育委員会教育長 武田 育夫

今まさに、時代の大きな転換点であり、日本全体、学び・教育のあり方が問われています。

子どもたち一人ひとりが自身の能力や個性を最大限伸ばし、子どもらしく生きる、その上で自分の頭で考え、目の前の課題を解決していく社会変革の当事者となつていける学びや教育を、この長野県から実現していきたい、またそれができる長野県であると信じています。

そのためには知事と教育長がしっかりと連携することはもちろんですが、義務教育は市町村や市町村教育委員会の皆さんと、また学校は学校現場の先生達、それを支える地域の皆さん、保護者の皆さん、さらには多様な学びの場を支える皆さん、など教育に携わる多くの関係者と目指すべき方向性をしっかりと共有することが重要であると考えます。

教育は「今」を積み重ねた先にある「未来」を創造する営みであり、未来とは希望です。

「信州学び円卓会議」からのメッセージを受け、私たちは未来の子どもたちのために、長野県から学びに関する「これまでの当たり前」をもう一度問い合わせし、子どもたちが主人公の「新しい当たり前」を創っていきます。

1 長野県の学び・教育をこのように改革していきます

- ①子どもたちが学校等でやりたいことを支える
- ②教員が学校等でチャレンジしたいことを支える
- ③一人ひとりの学びや得意を共に認め合う仕組みを検討する
- ④長野県の中山間地域の強みを活かした特色ある学びを広げる
- ⑤「こどもまんなか社会」の実現に向けた様々な機関の連携・協働を進める
- ⑥多様な学びの場を信州全体で支えるネットワークを再構築する

2 このような「力」をそなえた人を育成していきます

- ①他者と協力してよりよく生き、自分と他者を幸福にする「力」
- ②物事の本質を捉え自ら主体的に判断する地球市民として生きる「力」
- ③自らの人生を切り拓くための豊かな体験と基礎的な学「力」

3 このように改革を推進していきます

- ・市町村、市町村教育委員会、校長、教員、PTAなど、子どもの学びに関わる教育関係者と改革の方向性を共有する。
- ・それぞれの立場で「新しい当たり前」は何か、その実現に向けてどのような取組ができるか検討いただき、共に改革を推進していく。